

熊本地震で自分たちにできること

～作業製品を仮設住宅で過ごされている方にプレゼントしよう！～

熊本県立大津支援学校

4月11日（月）に入学式を終え、新入生と共に新たな学校生活が始まった週の14日（木）と16日（土）、震度7の大地震が発生し、その後約1ヶ月の休校となりました。その間も度重なる余震に生徒たちの心のケアや生活の様子に不安を感じていました。学校が再開した5月10日（火）、85名の高等部生徒が全員登校してきた姿を見て、生徒の不安感を少しでも早く取り除き、目標を持った学校生活を送ってほしいと強く感じました。5月、6月と通常の学校生活を送る中で、生徒たちの表情に笑顔や明るさが感じられるようになってきました。

そこで、同じように地震で不安な日々を送っている地域の方が元気になるために、「自分たちができることは何か」ということを生徒たちと一緒に考えることにしました。6月の学部集会で、被害を受けた家屋や道路、文化財などの写真を提示して地震による被害の大きさを説明しました。その後、町内に建設中の仮設住宅の写真を提示し、自分の家に住むことができなく、不安な生活を送っている人たちが身近にいることを話し、少しでも心が癒やされ、元気になってもらうために作業製品をプレゼントしてはどうかということをご提案しました。生徒たちからは、「プレゼントしたいです」「元気になってほしいです」などの前向きな意見が聞かれ、仮設住宅で過ごされている方へ作業製品をプレゼントすることにしました。陶芸班は湯飲みや皿、茶碗を、紙工班は油吸い取り用の「エコパック」と芳香剤の「かおりちゃん」を、木工班は集会所に長いすを、園芸班は集会所や保育所に花苗を植えたプランターをプレゼントすることにし、製作に取り組みました。大津町役場の災害対策本部と連携しながら話を進め、10月25日（火）、各作業班の代表29名で、学校近くの2カ所の仮設住宅を訪れました。1軒ずつ生徒たちが訪問し、「大津支援学校の生徒です。私たちが心を込めて作りました。どうぞ使って下さい」と声を掛けて作業製品と生徒たちの思いを書いたメッセージカードを入れた袋を手渡しました。入居者の方も突然の生徒たちの訪問に驚かれた様子も見られましたが、すぐに御理解いただき、喜んで受け取られました。また、留守のお宅には、玄関に袋を結んで置きました。約110軒を訪問し、用意したすべてのプレゼントを渡し終わると、生徒たちの表情は達成感で満ち溢れていました。その後、入居者の方から電話やハガキで感謝の言葉が学校に届きました。そのことを生徒に紹介し、自分たちが取り組んだことは多くの方が喜び、少しでも元気になられたことを共感しました。生徒たちは、今回の取組の意義を実感し、1週間後の学校祭に向けて更に意欲を高めました。

